

商工会議所LOBO(早期景気観測)

— 2012年7月調査結果 —

 **日本商工会議所**
The Japan Chamber of Commerce and Industry
2012年7月31日

業況DIは、悪化。先行きは好材料に乏しく、慎重な判断

<結果のポイント>

- ◇7月の全産業合計の業況DIは、▲25.2と、前月から▲3.9ポイントの悪化。エコカー補助金等の経済対策による下支え効果が弱まっているうえ、超円高や電力不足等を背景に取引先の海外移転・調達が加速していることや、海外経済の減速に伴う輸出減から受注低迷が続く。また、天候不順等により夏物商品が不調だったことに加え、大手専門店（ドラッグストア・ホームセンター等）やコンビニ等が客層を多様化していることなどから競争が激化し、地域流通業の業況は一段と厳しさを増している。
- ◇業種別では、建設業は、住宅エコポイント制度終了に伴うリフォーム工事の減少等により低調。製造業は、電力料金の値上げによるコスト増や、取引先の海外生産・調達の増強により受注が減少していることからマイナス幅は拡大。小売業は、天候不順等によりクールビズ・節電関連商品に期待ほどの動きがなかったほか、夏のセール時期が分散化したことにより客足が伸び悩み、大幅に悪化。サービス業は、震災の影響により昨年は中止となったイベント等が開催されるなど、観光や飲食関連で売上が好転したことから改善。
- ◇項目別では、仕入単価DIは、前月に続き、原油等の一部の原材料価格の下落により改善。一方、売上DI、採算DIは悪化。
- ◇先行きについては、先行き見通しDIが▲24.8（今月比+0.4ポイント）と、ほぼ横ばいとなる見通し。欧州の財政金融不安を背景に再び円高が進んでいることに加え、電力料金の値上げによるコスト増や、エコカー補助金終了による内需の反動減等、先行きへの不安は払しょくできず、好材料に乏しいことから、依然として慎重な見方が続いている。

----- 調査要領 -----

○調査期間 2012年7月13日～20日

○調査対象 全国の416商工会議所が3013企業にヒアリング

（東北については、被災を免れた企業や被害が軽微な企業から回答）

（内訳）建設業：449 製造業：731 卸売業：315 小売業：740 サービス業：778

○調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況および自社が直面する問題等

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

＜産業別の特徴的な動き＞

産業別にみると、業況D Iは、サービス業で改善、その他の4業種は悪化。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

DI値の傾向(最近6カ月の傾向) ↑ 改善傾向 ⇔ ほぼ横ばい ↓ 悪化傾向

【建設業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
		⇔	⇔	⇔	⇔	⇔

- ・「生コンや砕石等、被災地での工事に必要な資材価格が上昇」（一般工事業）
- ・「大手企業の設備投資は海外が中心。国内投資は低調なため、受注は厳しい状況」（一般工事業）
- ・「新設の住宅建設は堅調だが、販売価格は安価に設定されている。そのため、皺寄せが下請け企業に及んでいる」（建築工事業）

【製造業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
		⇔	⇔	⇔	⇔	⇔

- ・「中国やブラジル等、新興国向けの油圧機械部品の販売が減少」（油圧機械部品製造業）
- ・「取引先が中国とアメリカに工場を建設し、生産を開始。今後の受注減を懸念」（工作機械等製造業）
- ・「円高により受注が減少。先行きも不透明な状況が続く」（造船業）

【卸売業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
		⇔	↓	⇔	⇔	⇔

- ・「海外調達にシフトすることで赤字を免れているが、取引先のコストダウン要請が厳しく、限界に近い」（自動車関連部品卸売業）
- ・「販売価格の下落や売上の低下が続き、業績は悪化。価格競争が進む中で、新規の仕事が増えなければ厳しい」（建築材卸売業）
- ・「酒類販売のナショナルチェーンの進出により、地元小売店に大きな影響。それに伴い、自社の売上も減少」（酒類卸売業）

【小売業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
		⇔	↓	⇔	⇔	⇔

- ・「一部の店舗で夏のクリアランスを遅らせたことにより、足並みが揃わず、昨年と比べて盛り上がり欠ける」（商店街）
- ・「ネット通販など、販売形態が多様化し、バーゲンでの集客力が減少しつつある」（着物販売）
- ・「天候不順により客足が鈍い。クールビズや節電関連商品等の夏物需要も少ない」（総合スーパー）

【サービス業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
		⇔	⇔	⇔	⇔	⇔

- ・「飲料関係の物流が7月からピークを迎え、好調に推移」（運送業）
- ・「飲食情報サイトを活用したことで好調。経費はかかるものの、売上も大幅に増加」（飲食店）
- ・「7月～8月に開催するスポーツ大会や研修会等での利用が見込まれる」（旅館）

【業況についての判断】

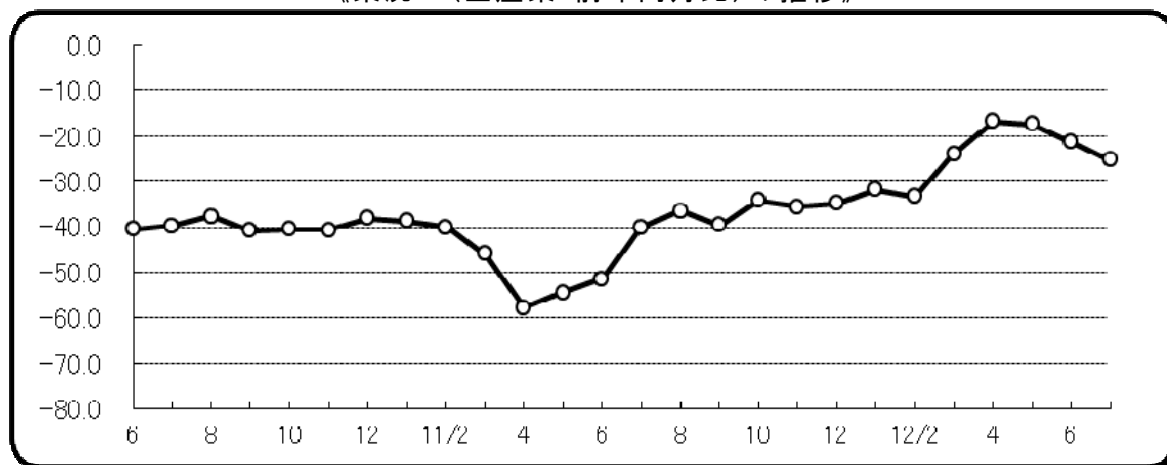
- 7月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は▲25.2（前月比▲3.9ポイント）と、悪化。産業別にみると、建設業は、住宅エコポイント制度終了に伴うリフォーム工事の減少等により低調。製造業は、電力料金の値上げによるコスト増や、取引先の海外生産・調達の増強により受注が減少していることからマイナス幅は拡大。小売業は、天候不順等によりクールビズ・節電関連商品に期待ほどの動きがなかったほか、夏のセール時期が分散化したことにより客足が伸び悩み、大幅に悪化。サービス業は、震災の影響により昨年は中止となったイベント等が開催されるなど、観光や飲食関連で売上が好転したことから改善。
- 向こう3カ月（8～10月）の先行き見通しは、全産業合計の業況DI（今月比ベース）は▲24.8（今月比+0.4ポイント）と、ほぼ横ばいとなる見込み。
- 産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、製造業は、電力料金の値上げによるコスト増や、エコカー補助金終了後の反動減の懸念などからマイナス幅が拡大。卸売業、小売業は、夏物需要の本格化を見込むことから改善。サービス業は、飲食店等において水産物など価格上昇が懸念されることなどから悪化の見込み。

業況DI(前年同月比)の推移

	12年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	▲33.4	▲23.9	▲16.8	▲17.5	▲21.3	▲25.2	▲24.8
建設	▲29.1	▲33.6	▲24.0	▲24.9	▲19.1	▲25.8	▲26.3
製造	▲27.6	▲15.3	▲9.5	▲7.5	▲13.7	▲18.1	▲22.2
卸売	▲27.6	▲27.4	▲17.3	▲14.0	▲14.5	▲23.6	▲17.9
小売	▲42.0	▲30.0	▲27.5	▲29.3	▲34.2	▲43.1	▲36.0
サービス	▲36.2	▲18.1	▲9.6	▲13.8	▲21.5	▲15.6	▲19.0

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI

《業況DI(全産業・前年同月比)の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

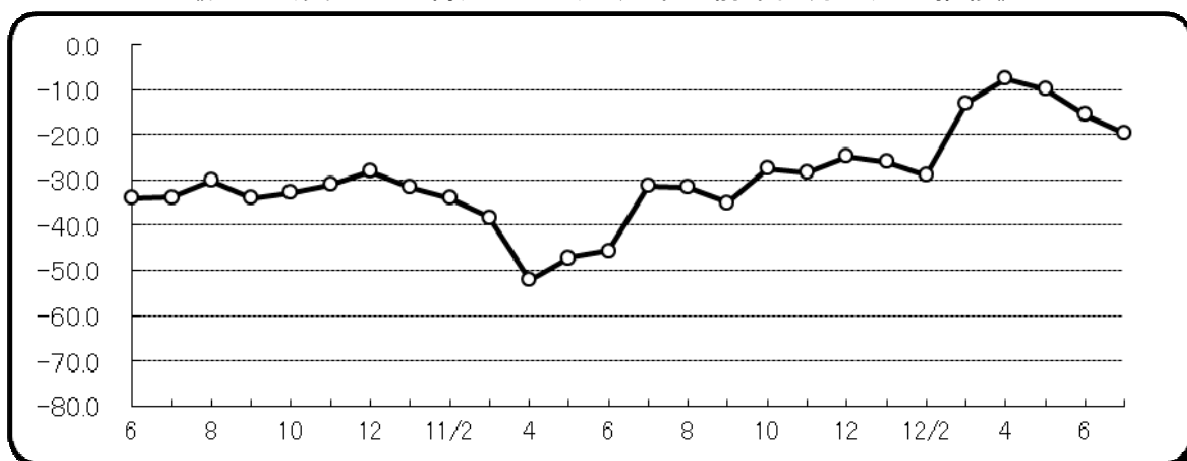
- 売上面では、全産業合計の売上D Iは▲19.8（前月比▲4.3ポイント）と、前月からマイナス幅は拡大。産業別にみると、建設業は、住宅エコポイント制度終了に伴うリフォーム工事の減少等により低調。製造業は、コストダウン要請により受注単価が下落していることに加え、取引先の海外生産・調達の増強により受注が減少していることから悪化。卸売業は、価格競争が激しく、販売価格が下落していることなどからマイナス幅は拡大。小売業は、天候不順等によりクールビズ・節電関連商品に期待ほどの動きがなかったほか、夏のセール時期が分散化したことにより客足が伸び悩み、大幅に悪化。サービス業は、震災の影響により昨年は中止となったイベント等が開催されるなど、観光や飲食関連で好転したことから改善。
- 向こう3カ月（8～10月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I（今月比ベース）は▲19.6（今月比+0.2ポイント）と、ほぼ横ばいとなる見込み。
- 産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、建設業は横ばい、製造業、サービス業は悪化、その他の2業種については改善する見込み。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	12年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	▲29.0	▲13.0	▲7.5	▲9.9	▲15.5	▲19.8	▲19.6
建設	▲24.7	▲19.7	▲14.7	▲17.6	▲12.3	▲16.2	▲16.2
製造	▲20.2	▲5.5	0.8	0.5	▲7.5	▲13.0	▲17.9
卸売	▲28.4	▲11.6	▲9.3	▲6.7	▲9.5	▲20.7	▲15.7
小売	▲36.8	▲18.1	▲15.5	▲22.6	▲30.3	▲38.8	▲31.7
サービス	▲33.5	▲11.4	▲3.3	▲5.4	▲14.6	▲10.3	▲13.6

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

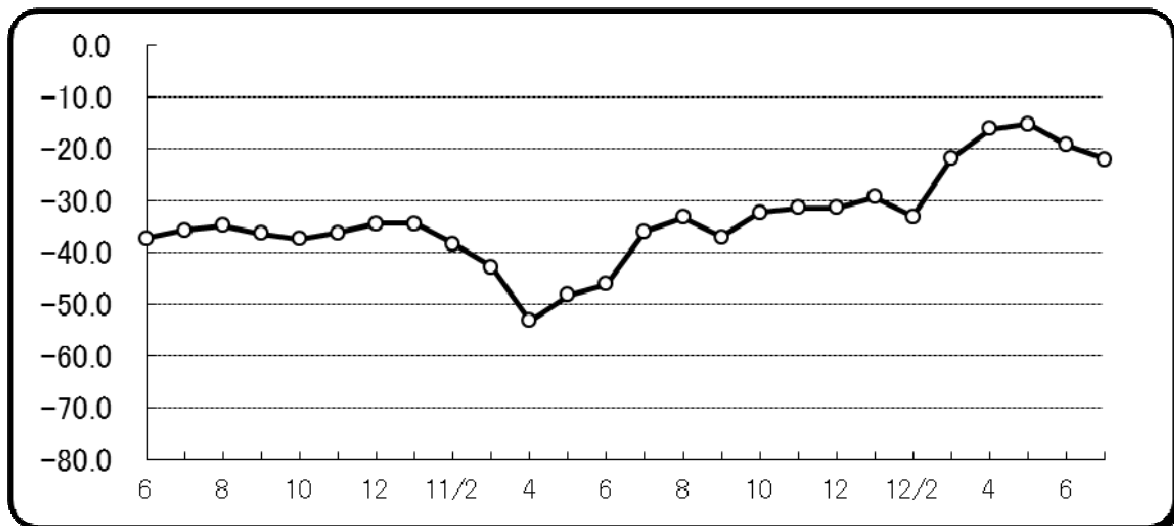
- 採算面では、全産業合計の採算D Iは▲22.1（前月比▲2.7ポイント）と、前月からマイナス幅は拡大。産業別にみると、製造業は、電力料金の値上げによるコスト増や、取引先からのコストダウン要請により受注単価が下落していることなどにより悪化。卸売業は、穀物や水産物等、一部の原材料価格が上昇している一方で、価格競争が激しく、販売価格が下落していることなどからマイナス幅が拡大。小売業は、大手専門店等との価格競争に加え、天候不順等により夏物商品の売上が伸び悩んだことから悪化。サービス業は、震災の影響により昨年は中止となったイベント等が開催されるなど、観光や飲食関連で売上が好転したことから改善。
- 向こう3カ月（8～10月）の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I（今月比ベース）は▲22.1と、今月と比べ、横ばいを見込んでいる。
- 産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、小売業は、マイナス幅が縮小、その他の4業種はほぼ横ばいの見込み。

採算D I（前年同月比）の推移

	12年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	▲33.1	▲22.0	▲16.2	▲15.3	▲19.4	▲22.1	▲22.1
建設	▲35.2	▲34.0	▲22.7	▲26.4	▲22.8	▲23.5	▲24.1
製造	▲26.7	▲15.2	▲13.1	▲6.7	▲14.7	▲17.1	▲18.0
卸売	▲27.6	▲18.9	▲13.6	▲11.2	▲9.5	▲16.1	▲16.8
小売	▲37.2	▲25.7	▲20.1	▲21.9	▲28.3	▲35.3	▲32.8
サービス	▲36.7	▲18.2	▲12.6	▲13.4	▲18.6	▲16.4	▲17.1

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I

《採算D I（全産業・前年同月比）の推移》



(参考)

資金繰りD I（前年同月比）の推移

	12年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	▲ 19.5	▲ 16.9	▲ 9.7	▲ 10.7	▲ 12.7	▲ 13.0	▲ 15.3
建設	▲ 21.9	▲ 23.5	▲ 14.9	▲ 12.8	▲ 15.2	▲ 19.8	▲ 21.4
製造	▲ 15.3	▲ 10.6	▲ 5.2	▲ 6.5	▲ 7.0	▲ 9.7	▲ 14.0
卸売	▲ 10.3	▲ 13.0	▲ 5.0	▲ 5.6	▲ 4.5	▲ 4.1	▲ 5.8
小売	▲ 24.0	▲ 18.3	▲ 13.9	▲ 15.0	▲ 16.9	▲ 18.8	▲ 18.3
サービス	▲ 22.1	▲ 19.2	▲ 9.6	▲ 12.0	▲ 17.1	▲ 10.8	▲ 14.4

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは▲13.0と、前月からほぼ横ばい。産業別にみると、建設業、製造業、小売業は悪化。卸売業は、ほぼ横ばい、サービス業は、売上が増加していることから改善した。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しをみると、マイナス幅は今月と比べ拡大する見込み。産業別にみると、小売業は、ほぼ横ばい、その他の4業種でマイナス幅が拡大する見込み。

仕入単価D I（前年同月比）の推移

	12年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	▲ 21.6	▲ 29.0	▲ 30.1	▲ 25.1	▲ 19.3	▲ 15.2	▲ 14.8
建設	▲ 30.0	▲ 35.8	▲ 38.1	▲ 35.5	▲ 25.5	▲ 26.2	▲ 22.9
製造	▲ 26.1	▲ 35.9	▲ 34.3	▲ 29.0	▲ 21.0	▲ 14.3	▲ 13.8
卸売	▲ 10.3	▲ 23.8	▲ 24.1	▲ 20.8	▲ 19.0	▲ 12.1	▲ 14.0
小売	▲ 15.1	▲ 19.7	▲ 21.5	▲ 16.1	▲ 11.4	▲ 7.8	▲ 6.8
サービス	▲ 23.1	▲ 29.4	▲ 31.7	▲ 25.3	▲ 21.3	▲ 17.9	▲ 19.1

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは▲15.2と、前月からマイナス幅が縮小。3カ月連続の改善。産業別にみると、建設業は、ほぼ横ばい、その他の4業種で改善した。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しをみると、マイナス幅は今月と比べほぼ横ばいとなる見込み。産業別にみると、建設業は、マイナス幅が縮小、製造業、小売業は、ほぼ横ばい、その他の2業種は悪化する見込み。

従業員D I（前年同月比）の推移

	12年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	▲ 2.8	▲ 3.3	0.1	▲ 1.7	▲ 0.3	▲ 0.8	▲ 0.5
建設	▲ 5.7	▲ 6.3	▲ 3.5	▲ 7.2	▲ 4.1	▲ 1.3	1.8
製造	▲ 4.8	▲ 4.7	▲ 2.6	▲ 4.0	▲ 0.2	▲ 3.3	▲ 4.8
卸売	▲ 5.1	▲ 5.5	▲ 4.3	▲ 6.2	▲ 7.8	▲ 5.7	▲ 7.0
小売	0.3	▲ 3.3	3.4	0.5	1.6	▲ 0.8	1.4
サービス	▲ 0.9	1.1	3.9	4.1	4.0	4.5	4.0

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは▲0.8と、前月からほぼ横ばい。産業別にみると、建設業、卸売業は、人手過剰感が弱まったが、製造業は、人手過剰感が強まった。サービス業は、ほぼ横ばい。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しをみると、今月と比べ、ほぼ横ばいで推移する見込み。産業別にみると、建設業、小売業は、人手不足感が強まるが、サービス業は、ほぼ横ばい、製造業、卸売業は人手不足感が強まる見込み。

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I

【ブロック別概況】

○ ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、東北、北陸信越で改善、その他の7ブロックは悪化した。ブロック別の概況は以下のとおり。

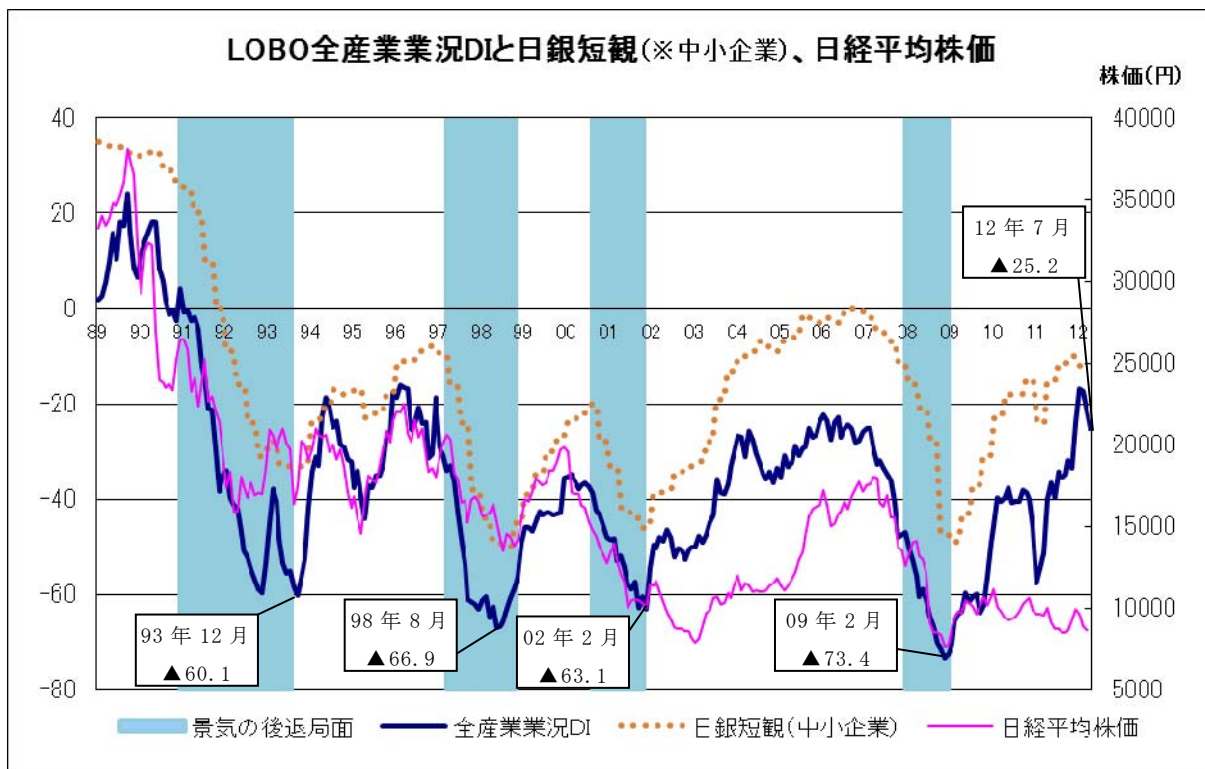
- ・ 北海道は、気温が上がらず、夏物の衣料や家電製品等の動きが鈍いことなどから悪化。
- ・ 東北は、復興需要が継続しているほか、去年は中止となったイベント等が再開されるなど、観光客数が増加していることから改善。
- ・ 北陸信越は、自動車や航空機向け部品等の受注が好調なことなどから改善。
- ・ 関東は、電力料金の上昇に伴うコスト負担増に加え、取引先の海外移転により受注が減少していることなどからマイナス幅が拡大。
- ・ 東海、中国は、取引先の海外移転などによる受注の減少やコストダウン要請が強くなり受注単価が下落していることなどから悪化。
- ・ 近畿は、夏のセール時期が分散化したことに加え、低価格競争の激化により売上が伸び悩んでいることなどから悪化。
- ・ 四国は、低調な造船業の影響により関連産業の受注が減少していることなどからマイナス幅が拡大。
- ・ 九州は、豪雨被害により宿泊等のキャンセルが相次いでいることなどから悪化。

○ ブロック別の向こう3カ月（8～10月）の業況の先行き見通しは、今月と比べ、関東、東海は、マイナス幅が拡大、北陸信越、中国は、ほぼ横ばい、その他の5ブロックはマイナス幅が縮小する見通し。欧州の財政金融不安を背景に再び円高が進んでいることに加え、電力料金の値上げによるコスト増や、エコカー補助金終了による内需の反動減等、先行きへの不安は払しょくできず、好材料に乏しいことから、依然として慎重な見方が続いている。

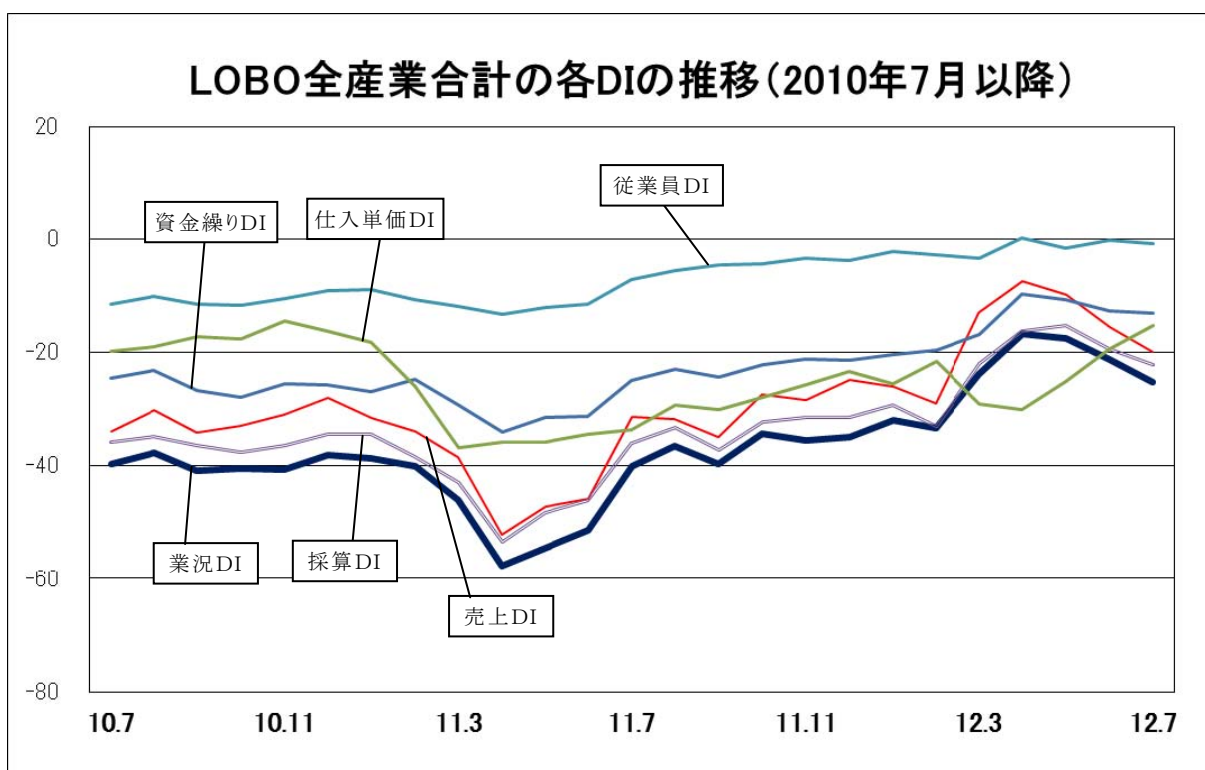
ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

	12年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全 国	▲ 33.4	▲ 23.9	▲ 16.8	▲ 17.5	▲ 21.3	▲ 25.2	▲ 24.8
北 海 道	▲ 28.6	▲ 14.0	▲ 18.4	▲ 11.5	▲ 18.3	▲ 25.3	▲ 20.7
東 北	▲ 25.6	4.5	▲ 4.1	▲ 1.6	▲ 9.1	▲ 3.3	▲ 1.7
北陸信越	▲ 41.0	▲ 22.6	▲ 20.7	▲ 17.5	▲ 24.2	▲ 21.8	▲ 22.6
関 東	▲ 32.4	▲ 19.7	▲ 11.5	▲ 15.3	▲ 19.6	▲ 25.9	▲ 28.1
東 海	▲ 27.1	▲ 18.7	▲ 8.3	▲ 6.7	▲ 11.1	▲ 12.7	▲ 19.0
近 畿	▲ 31.8	▲ 39.1	▲ 25.7	▲ 19.9	▲ 30.3	▲ 37.6	▲ 33.5
中 国	▲ 51.4	▲ 51.5	▲ 30.0	▲ 30.2	▲ 27.5	▲ 31.7	▲ 32.0
四 国	▲ 37.6	▲ 27.4	▲ 21.6	▲ 37.4	▲ 31.4	▲ 37.1	▲ 23.3
九 州	▲ 29.5	▲ 31.3	▲ 28.5	▲ 30.5	▲ 25.2	▲ 35.4	▲ 34.1

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I



※短観 (中小企業) : 資本金 2 千万円以上 1 億円未満の企業が調査対象





業況DIは、悪化。先行きは好材料に乏しく、慎重な判断

ポイント

- ▶ 7月の全産業合計の業況DIは、▲25.2と、前月から▲3.9ポイントの悪化。エコカー補助金等の経済対策による下支え効果が弱まっているうえ、超円高や電力不足等を背景に取引先の海外移転・調達が加速していることや、海外経済の減速に伴う輸出減から受注低迷が続く。また、天候不順等により夏物商品が不調だったことに加え、大手専門店（ドラッグストア・ホームセンター等）やコンビニ等が客層を多様化していることなどから競争が激化し、地域流通業の業況は一段と厳しさを増している
- ▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲24.8（今月比+0.4ポイント）と、ほぼ横ばいとなる見通し。欧州の財政金融不安を背景に再び円高が進んでいることに加え、電力料金の値上げによるコスト増や、エコカー補助金終了による内需の反動減等、先行きへの不安は払しょくできず、好材料に乏しいことから、依然として慎重な見方が続いている

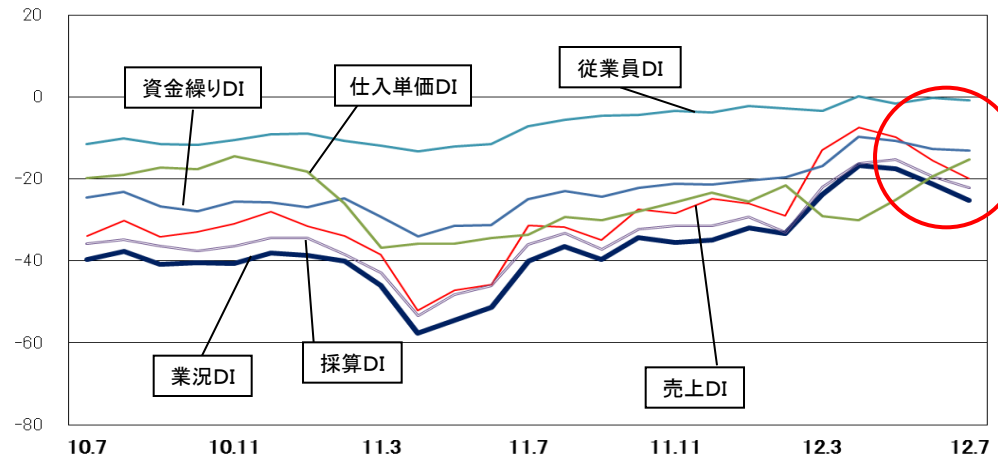
仕入価格の状況について（1四半期前との比較）

- ▶ 仕入価格が「上昇している」企業（全産業）は10.3%。一時に比べ、上昇に一服感が見られるものの、「高止まりが続いている」企業（全産業）も48.3%とほぼ半数
- ▶ 「低下している」企業（全産業）は41.4%に上るものの、そのうち89.9%が「低下しているが、依然厳しい水準」にあると回答
- ▶ 業種別にみても、全業種で上昇に一服感が見られる。ガソリンをはじめ燃料価格の低下を歓迎する声が多く聞かれる一方、穀物の高騰を懸念する声が高まりつつある

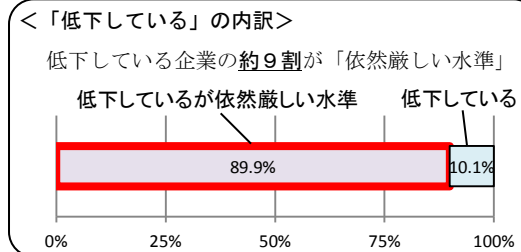
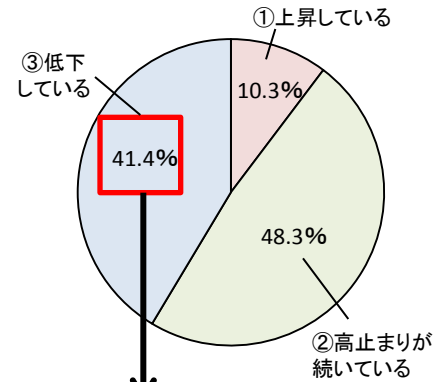
[中小企業の声]

- ▶ 震災被災地の需要により、一部の資材や人件費が高止まりしている（帯広 一般工事業）
- ▶ 世界的な投機の影響により、仕入価格が乱高下している。砂糖は下落、小麦は上昇するなど、安定的な仕入に支障（むさし府中 菓子製造販売業）
- ▶ 米国の熱波の影響により、トウモロコシ、大豆の価格が高騰。その他の食料品への波及を懸念（横浜 食品製造業）
- ▶ パンの原料となる小麦等の粉類の価格は高止まりが続いている（静岡 食品卸売業）
- ▶ 原材料のカツオの仕入価格が高騰。今後も上昇が見込まれる（焼津 水産品製造業）
- ▶ 天然黒鉛、ジルコニウム鉱等の耐火物の原料価格は上昇・高止まりが続いており、収益の圧迫要因（備前 耐火物製造業）
- ▶ 鉄スクラップの仕入値は下落しているが、売価も下落しており、収益増には結びつかない（徳山 その他鉄鋼業）
- ▶ 燃料価格は低下したものの、売上は増えず、経営は厳しい状況（日向 タクシー業）

LOBO全産業合計の各DIの推移(2010年7月以降)



◆全業種



◆業種別

	①	②	③
建設	8.7	55.9	35.4
製造	11.1	48.5	40.4
卸売	10.9	46.7	42.3
小売	10.2	47.5	42.4
サービス	10.4	44.3	45.4

参考：平成24年3月調査
(震災以降の仕入価格について)

